

「知る」と「知道」についての対照研究

周 国龍¹

要旨

日本語の動詞の否定過去形は「～なかった」で、中国語の否定過去形は「没～」にあたると一般的に認識される。しかし、「知らなかった」は「没知道」にしたら、間違いになる。必ず「不知道」で対応しなければならない。このずれから誤用が生じている。

双方とも瞬間動詞の性格と状態動詞的な性格を有する。本稿はその両面から分析した。その結果、瞬間動詞の性格を有する部分に双方が対応する文法形式が存在するが、状態動詞的な性格を有する部分にずれがあり、そこから誤用が生じていることを突き止め、その原因を明らかにした。

キーワード

瞬間動詞, 状態動詞, 形容詞, 否定, 過去形

1. はじめに

日本語の「～た」は、過去の意味を表す過去形として使われる場合と変化の意味を表す場合に使われる。中国語の「～了」にも同じく、過去を表すのに用いられる場合と変化を表す場合に用いられる。また、否定の過去形で日本語は「～なかった」であり、中国語は「没～」である。このように見れば、日本語と中国語は同じような文法形式があるため、日本語を母語とする中国語学習者、また中国語を母語とする日本語学習者にとっては容易に習得できる文法事項に見えるかもしれない。例えば、

- | | | |
|---------------------|--------|------|
| 1 : 私は朝ご飯を食べました。 | 我吃早饭了。 | (作例) |
| 2 : 私は朝ご飯を食べませんでした。 | 我没吃早饭。 | (作例) |
| 3 : 電気が付きました。 | 电灯亮了。 | (作例) |
| 4 : 電気が付きませんでした。 | 电灯没亮。 | (作例) |

これらの例から見れば、この文法事項において、「～た」は「～了」にあたり、「～なかった」は「没～」にあたっているので、日本語と中国語は対応しているように見えて、習得と応用するには何の問題もないように考えてもよさそうである。しかし、動詞「知る」の肯定過去形「～た」の場合は同じく「～了」で対応できるが、否定の過去形「～なかった」の場合は「没～」では間違いになり、「不」でなければならないのである。

¹ 国際人間科学部国際学科 対照言語学 (Contrastive Linguistics)

5：私は知りました。 我知道了。 (作例)

6：私は知りませんでした。 我不知道。 (作例)

×我没知道。 (作例)

動詞の文法形式から言えば日本語の「食べる」、「付く」と「知る」では同じく「～た」の肯定過去形でも、「知らなかった」は「食べなかった」と同じく否定過去形「～なかった」としても成り立つ。一方、中国語では肯定過去形の場合のみ「了」で対応でき、否定過去形において、「食べなかった」と「付かなかった」は「没」で対応できたのに、「知らなかった」だけは「没」で対応できず、「不」を用いなければならない。何故、日中両言語の「知る」と「知道」は他の動詞と同じ対応ができず、動詞の文法規則から外れたのか、その理由を探ってみたい。

「知らなかった」を「没知道」で対応しない理由について、まず、日本語動詞の分類から、「知る」が瞬間動詞的な性格を有することを指摘する。次に、「知る」の否定形に形容詞と似たような性格を示す状態動詞としての一面もあることを明らかにする。そして、中国語の「知道」にも瞬間動詞的な性格を有し、また状態動詞としての性格があることを指摘する。「知る」と「知道」は同じく瞬間動詞的な性格を持っている場合において問題は生じないが、お互いに状態動詞的な性格を有する部分ではずれが生じていることを指摘し、その理由を明らかにしたい。

2. 日本語動詞の分類について

金田一^(注1)は日本語の動詞を状態動詞、継続動詞、瞬間動詞、第四種の動詞と四種類に分類した。それぞれの特徴を簡単にまとめると、以下のようになる。

状態動詞は、「動作・作用を表すと言うよりも寧ろ「状態を表す」と言うべき動詞で、通常時間を超越した観念を表す動詞である」(金田一 p. 7)。「一般の動詞の下に「一ている」を付けることがないのを特色とする。即ち、動詞とは言うものの動詞らしからぬ、形容詞に近い動詞」である(金田一 p. 7)。例として、ある、いる、値するなどといった動詞が挙げられる。

継続動詞は、「明瞭に動作・作用を表す動詞であるが、但しその動作・作用は、ある時間内に続

いて行われる種類のものである」、「これらの動作は…ある時間内続くのを常とする動作である。これ等の動詞は「一ている」を付けることが出来、若しつけば、その動作が進行中であることを表す。(金田一 pp. 7-8) 例として、読む、書く、食べるなどといった動詞が挙げられる。

瞬間動詞は「動作・作用を表す動詞であるが、その動作、作用は瞬間に終わってしまう動作、作用を表す動詞である」。「この種の動詞は「一ている最中」だと言うことは出来ない。この種の動詞に、「一ている」を付けるとその動作・作用が終わってその結果が残存し

ていることを表す」(金田一 p. 8)。死ぬ、点く、結婚するなどといった動詞が挙げられる。

第四種の動詞は「時間の観念を含まない点で第一種の動詞と似ているが、第一種の動詞が、ある状態にあることを表すのに対して、ある状態を帯びることを表す動詞と言いたいものである」。この種の動詞は、「ーている」をつけない形は用いられない」(金田一 pp. 8～9)。例としては、聳える、すぐれる、似るなどといった動詞が挙げられる。

以上のように金田一の動詞に関する分類を引用した。金田一の分類方法に照らし合わせて「知る」をどれに分類されるべきか、以下、例をあげながら考えてみる。

まず、一般的に瞬間動詞に分類される動詞の例を見ながら、「知る」にも瞬間動詞的な性質の一側面があることを指摘したい。

瞬間動詞は終わった動作の結果が残存するという性質を持っている。瞬間動詞は瞬間的に動作が終わり、動作が終わった直後は「～た」で表し、動作による変化の結果はそのまま持続する。結果の持続は「～ている」を用いて表現する。

7：電気がつく。 (作例)

8：電気が付いた。 (作例)

9：電気が付いている。 (作例)

10：田中さんは結婚する (作例)

11：田中さんは結婚した。 (作例)

12：田中さんは結婚している。 (作例)

8は「付ける」動作によって、電気がついていない状態から瞬間的に「付いた」結果が生じ、しかもその結果がそのまま残存するため、「～ている」を用いて表現する。また、11も結婚していない状態から「結婚する」という動作の実行によって、その瞬間「結婚した」結果が生まれ、その瞬間的に終わった動作の結果の残存が「～ている」を用いて、「結婚している」で表すわけである。「知る」も同じような現象が観察される。

13：乃木大将の死んだ時も、父は一番さきに新聞でそれを知った。(注2)

14：彼は自分のしたことが、思った以上に彼にとって致命的であるのを知った。(注2)

13の父は「乃木大将の死」を知らない状態から新聞を読んだ瞬間に、「乃木大将の死」を「知った」という状態に変わる。

14は言ってみれば、知らない状態から何かのきっかけで知った状態に変わった、ということを含意するわけである。言い換えれば、情報は「知らない」状態から「知った」状態に変わったことを表現したい場合は「知った」が用いられる。これは質問の仕方からもそれが伺える。話し手はどのような方法、あるいはいつの時点で「知らない」から「知った」のかを相手に尋ねる時に、「知ったか」を用いて尋ねるであろう。即ち、「知ったか」で聞くのはどうやって「知らない」状態から「知った」状態に変わったのか、その方法、時点を聞くわけだから、「～た」が用いられたわけである。話し手は

15：A：それ、どこで知ったの？

B：新聞を見て知ったんだよ。

16：A：何で弊社をお知りになりましたか。

B：新聞で御社の業務に関する記事を拝見して知りました。^(注3)

以上、見てきたように、「知った」を用いた場合は基本的に「知らない」という状態から何らかの方法、手段、あるいはある時間点において、その情報を入手して「知った」状態に変わったことを焦点に表現しているわけである。

もし、瞬間的に終わってしまった結果の残存状態を表現しようとするなら、「～ている」が用いられる。

17：父は乃木大将の死を知っている。

18：彼は自分のしたことが、思った以上に彼にとって致命的であるのを知っている。

父は「乃木大将の死」を知らない状態から新聞を読んだ瞬間に、「乃木大将の死」を「知った」状態に変わる。その後、「知った」という結果も残存することになるため、それを「～ている」を用いて表わすことになる。

情報取得過程の順序を踏んで表現するなら、「～る」から「～た」、そして「～ている」になる。つまり、「知らない」から何らかのきっかけで「知った」という結果に変わった後、その結果がそのまま残存するということである。しかし、日常の言語生活において、必ずしもこの順序で発話されるわけではなく、すでに結果の残存状態と思われる前提があれば、次のように、直接「～ている」が用いられるであろう。

19：僕だって、もう二十五になるんだからね。恋も、愛も十分に知ってるさ。^(注2)

19は「恋も、愛も十分に知ってるさ」の前に「二十五になる」と前置きがあるため、「知った」後の結果が残存していることを意味する。つまり、「僕」は二十五になる前のある時点に「恋も、愛も」「知らない」状態からすでに「知った」状態に変わっていた。その「知った」結果が今も持続するわけである。このようなすでに結果状態が残存していることを前提に質問する場合、「～ている」形式を用いて質問するのである。

20：世界の人口はどれぐらいか知っていますか。 (デジタル大辞泉)

21：彼の経歴を知っているか。 (新明解国語辞典)

20は世界の人口は既に知っていると予想しての質問である。21も同じである。

上述したように、「知った」はある物事を何らかのきっかけではじめて知った時に用いられるのであるが、「知った」後はその残存状態が持続するから、「知っている」になるわけであり、そのような予想を前提で質問するなら、「～ている」形式が用いられるであろう。

このように見てくれば、「知る」は金田一が分類した瞬間動詞的な性格の一面を有することが分かる。ここで一面を有すると言うのが、その否定の場合はまた瞬間動詞と違う一面もあるからである。瞬間動詞なら、「～ない」だけでなく、「～ていない」^(注4)といった否定形式で表現することもできるはずである。

22：電気が付かない。

23：電気が付いていない。

24：田中さんは結婚しない。

25：田中さんは結婚していない。

しかし、「知る」では「～ていない」形式は一般的には使われないようである。

26：A：世界の人口はどれぐらいか知っていますか。

B：（世界の人口はどれぐらいか）知りません。

？B：（世界の人口はどれぐらいか）知っていません。

27：A：彼の経歴を知っているか。

B：（彼の経歴は）知りません。

？B：（彼の経歴は）知っていません。

26、27において、事前に情報等が全く与えられずに、いきなり聞かれた場合、否定の答えなら、「知っていない」よりも「知らない」という答えになるのであろう。この「知らない」は関係する情報、知識、経験がないままの状態にあることを意味する。一方、この場で説明を受け、あるいは関係する情報を得たら、「知らない」ではなく、「知らなかった」で返事することになるだろう。

28：（世界の人口はどれぐらいか）知らなかった。

29：（彼の経歴は）知らなかった。

これらの例を見てわかるように、「知る」の否定形式「知らなかった」にも「知らない」状態から「知った」状態に変わったという意味を含有することがわかる。ただ、「知らなかった」で表現する場合、話し手は発話時点まで知らない状態が持続していたことを焦点に表現しているのである。

「知った」結果の残存はありうるから、「知っている」で表すことができるが、「知らなかった」結果状態の持続残存はありえないから「～ていない」と同じく、「～ていなかった」という対応する表現形式は存在しないだろうと推測される。

前述のように「知らなかった」の「否定＋た」の場合も知らない状態から知った状態に変った

という意味を含有するが、基本的に発話時点までの過去において、物事についての情報を得ていなかったという状態を表す場合に用いられる。

30：こう云う方面に興味のない宗助は、固より菜根譚の何物なるかを知らなかった。^(注2)

31：まじまじと天井を眺めている彼は、ほとんど自分の腰から下に、どんな大事件が起

っているか知らなかった。^(注2)

32：しかし先生がどこにいるかはまだ知らなかった。^(注2)

33：だから、トゥールーズってすごい、そんなにね、大きな都市って知らなかった、

見るまで。^(注2)

34: そうだね、一応親戚にいるけど、(うんうん) でもそのとき、受けるときまでは(うんうん) 別に知らなかったから。^(注2)

30は「固より」から知った状態に変化したという意味がなく、発話された時点においても知らないままの状態であると思われるであろう。31も32も同じく発話時点においては知らないままの状態になっているであろう。

こう見てくると、「知らなかった」は基本的に発話時点以前の状態を焦点に描写し、発話時点までに、情報或いは知識がないという意味を含有するだけで、今はすでに「知った」という意味の有無には言及していない。しかし、もう一つは33.34のように発話時点直前までは知らなかったが、何らかの形で情報を入手し、知った状態に変わったという意味を含有する。その場合、文脈による支持が必要になる。従って、「知らなかった」は文脈指示がなければ基本的に発話時点まで関係情報は認知していないという状態を表すわけである。

日本語の「知る」は瞬間動詞の一面を有する一方、否定形式として、発話時において関係する情報がまだ手に入っていない状態を表す「知らない」か、発話時より過去の時点において情報を入手しなかった状態を表す「知らなかった」、あるいは関係する情報を入手することにより、「知らない」状態から「知った」状態に変わった状態を表す「知らなかった」の場合は、動作性が薄く、むしろ動詞でありながら、性質、状態を表す形容詞に近い性格があると考えてもよいようである。この形容詞に近い性格が中国語の状態動詞の「知道」との文法形式の相違を生じさせているように考えられる。

3. 中国語の「知道」について

日本語の「知る」に対応する中国語の「知道」は前述したように瞬間動詞の性格を有するが、状態動詞^(注5)と分類されている。状態動詞の「知道」に「了」を付けることができるが、「着」、「过」を付けることはできない。「了」を付けて「知道了」は「知らない」状態から瞬間的に「知った」状態に変化したという意味を表す。この意味から言えば、日本語の「知る」と同じように瞬間動詞の性格を有するとも言えようが、「知道」は状態持続の意味を本来持っている動詞で、「知道」で既に結果状態の持続を表すため、更に同様の持続を意味する「着」を付けて「知道着」で結果状態持続を表す必要はない。また、「知道」は動詞的な性格を持っているが、動作性が乏しく、状態を表すという面から言えば、形容詞に近い性格も持っていると言えよう。「知道」が状態動詞に分類される所以である。

以下、「知道」の例をあげながら、具体的に説明を加えよう。

35: 我知道了那个消息就告诉你。 あの情報を入手したらすぐ教えますよ。(試訳)

36: 我看了一下那个说明就知道了。あの説明を読んだらすぐわかりました。(作例 試訳)

35は話し手も発話時点でまだ知らないが、「知らない」から「知った」状態に変わったから教えると約束する例である。36は説明を読んで、「知らない」状態から「知った」状態

に変わったという意味である。このような例から見てわかるように「知道了」は「知らない」から何らかのきっかけで瞬間的に関係する情報を入手し、その後、「知った」状態になったことを表す。従って、瞬間動詞的な性格も持っていると言えよう。

37：我知道你爱打羽毛球。 君がバドミントンが好きなのをぼくは知っている。(注6)

38：你说的那个问题我知道，上次开会还有人提过呢。(注7)

おっしゃった件は、前回の会議で既に提起されていたので知っていますよ。(試訳)

37、38、は既に知っている状態なので、「知道」だけで結果持続を表現できる。

39：这些事我不知道。 こういった事は僕は知らない。(注5)

40：要不是你告诉我的话，我到现在都不知道。 (作例)

教えてくれなかったら、今も知らなかったでしょう。(今は知った)

39は今もまだ知らないと認識した場合、今の状態を「不知道」で表すことになるが、40のように文脈があれば、「不知道」は知らない状態から今既に知った状態に変わったという意味を含有することも可能である。「没知道」という表現形式がないため、「不知道」を用いなければならないが、「今まで」など過去の時間を表す言葉で今既に知った状態に変化したという意味を含有することができる。日本語の「知らなかった」のように「没知道」という過去形で表すことができない。この点から見れば、日本語と異なるように見えるが、次のような例を見てわかるように実は中国語では「没知道」を使えない点において、形容詞と同じく「没」で否定を表す表現形式が使えない。このようなところから考えれば、状態動詞「知道」に形容詞の性格に近い側面も有することを示唆してくれた。程度副詞が一般的に形容詞を修飾できるが、動詞を修飾することができない。しかし、実際、次のような例で、限られているが、「知道」を修飾することができる。

41：我不大知道这件事儿。 この一件を私はあまり知らない。(注5)

42：很知道其中的奥秘。 その中の秘密についてよく知っている。(注5)

「ある種の名詞を客語とする場合、程度副詞の修飾を受けることができる」(呂 p. 451)と条件付きではあるが、「知道」は程度副詞で修飾することができるということから多かれ少なかれ形容詞的な性格を有すると考えてもよからう。

4. 「知道」と「知る」との対照

一で日本語の「知る」、二で中国語の「知道」についてそれぞれ分析してきたが、これからは何故、「知らなかった」を「没知道」で対応できないのかについて考えていく。まず、中国語の「知道」を考えよう。

金田一の動詞分類の定義を借りて、中国語の「知道」を照らし合わせてみれば、「不知道」から「知った」という結果状態になるのは「その動作、作用は瞬間に終わってしまう動作、作用を表す動詞」であると言えよう。「在知道」のような表現形式で「一ている最中」という意味を表すことは出来ない。この点を見れば、瞬間動詞的な性格が認められるわけで

ある。一方、程度副詞の修飾を限定的にはあるができる。そして「知道」自体に状態持続の意味を本来持っていて、形容詞と同じように、否定を表す「不」だけ用いられ、「没」が使えない。これらの点から見れば形容詞のような状態、性質を表す性格の一端を伺わせている。

43：这块料子很漂亮。 この生地は綺麗です。 (作例)

？这块料子漂亮着。

这块料子不漂亮。 この生地は綺麗ではない。

？这块料子没漂亮。

44：这间房间很宽敞。 この部屋は広い。 (作例)

？这间房间宽敞着。

这间房间不宽敞。 この部屋は広くない。

？这间房间没宽敞。

43、44の形容詞の用例で示したように、状態を表す場合において、形容詞は「知道」と同じような表現形式であることが分かる。

一方、「知る」は肯定の表現形式の場合、瞬間動詞的な性格を持っているような振る舞いであるが、否定の場合は状態動詞、あるいは形容詞のような表現形式をとっている。

45：店名が残るかどうかは知らない。(注2)

？店名が残るかどうかは知っていない。

45は店名を認知しない状態にいることを表すが、「知っていない」は用いられない。

「知らない」自身に既に状態を表す意味があるので、「知っていない」といった状態の持続を表す表現は必要がないというよりもそもそも最初から「知っていない」という状態の存在もあり得ないことであろう。この点を見れば、「没知道」と同じ理由である。

47：しかし先生がどこにいるかはまだ知らなかった。(注2)

但是，还不知道老师在哪儿。(試訳)

「まだ」があるため、「知らなかった」は状態持続の意味を含有することが明らかである。「知らなかった」という否定の過去形は発話時点を基準に使われただけで、状態持続を表すことには変わらない。これは日本語の形容詞も同じである。

48：昨日の映画は面白かった。 昨天的电影很好看。(作例)

49：昨日の映画は面白くなかった。 昨天的电影不好看。(作例)

「面白かった」にしても、「面白くなかった」にしても、日本語の形容詞は発話時点において過去の出来事についての表現であれば、過去形を用いるが、出来事自体は過去になっておらず、発話時点においてもその状態は持続している。この点においては動詞の「知らなかった」も形容詞と同じである。

50：宗助はこういう名の雑誌があると云う事さえ、今日まで知らなかった。(注2)

「今日まで」という言葉から今は既に知った状態に変わったという意味を含有するが、

発話時点まで「知らなかった」は状態持続が表現の焦点になっていると考えられる。そうであるならば、形容詞と同じような表現形式になり、過去形ではあるが発話時点までの状態の持続を表すわけである。

5. 終わりに

以上の分析を通してわかるように、「知る」は瞬間動詞的な性格を持っているが、「知らない」、「知らなかった」は形容詞と同じような状態を表す一面を持っている。一方、中国語の「知道」は「知る」と同様、瞬間動詞的な性格を持っている一方、形容詞的な性格も持っている。肯定形式の場合、お互いに瞬間動詞的な性格を持っていて、日本語と中国語は同じく動詞の文法規則に則ってうまく対応しているが、否定形式の場合において、日本語は動詞も形容詞も過去の出来事なら、過去形が用いられる。しかし、中国語は否定の表現形式において、状態動詞的な性格がクローズアップされ、中国語の形容詞と同じように、否定の過去形が用いられない所から、表現形式において、日本語とのずれが生じたわけである。両者にこのようなずれがあるから、「知らなかった」と「没知道」との間に誤用が生じたわけである。日本語の「知る」と中国語の「知道」のこのような異同点をよく理解できれば、誤用をなくすことはできるであろう。

注

注1：金田一春彦 (1993年)『日本語動詞のアスペクト』 むぎ書房

注2：茶瀧 <http://tell.cla.purdue.edu/chakoshi-wiki/>

注3：<http://dora0.blog115.fc2.com/blog-entry-77.html> 2017年9月26日 閲覧

注4：「知っていない」について、森田良行 p.539 に2例ある。また、久野暉は「知っていない」について詳しく論述しているので、参照されたい。

注5：沖森卓也 蘇紅編著 2014年 『中国語と日本語』 p. 14 朝倉書店

注6：呂淑湘編 牛島徳次監訳 (1997年) 『中国語用例辞典』 東方書店

注7：蘆福波 2000年 『対外漢語常用詞語対比例釈』 北京語言文化大学出版社

参考文献

沖森卓也 蘇紅編著 2014年 『中国語と日本語』 朝倉書店

金田一春彦 1993年 『日本語動詞のアスペクト』 むぎ書房

久野 暉 1991年 『新日本文法研究』 大修館

森田良行 2013年 『基礎日本語辞典』 角川学芸出版

呂 淑湘編 牛島徳次監訳 1997年 『中国語用例辞典』 東方書店

蘆 福波 2000年 『対外漢語常用詞語対比例釈』 北京語言文化大学出版社

A Comparative Study of Japanese 「shiru」 and Chinese 「zhidao」

Guo Long ZHOU